

▶ WM柵の見回り点検の一例

1.2kmのWM柵で40箇所の補修・補強が必要だった
(平成19年に設置した柵)・・・6年前

要因の区分	箇所数	対応例
① 地面とWMの隙間	13	アンカー・支柱の追加 WMはめ込み等
② WM間の隙間	4	結束強化
③ 傾斜等による高さ不足	3	WMの柵上部への取り付け 忍び返しの除去
④ 結束線の切断など	6	結束強化
⑤ 水路部分の管理	4	WMの追加、水路の清掃
⑥ 1/3等による柵の損傷	5	支柱・アンカーの追加など
⑦ その他	5	草の除去、WM折れ曲がりの補修

▶ WM柵の見回り点検に要する負担

1.2km、40箇所の補修・補強に要した労力（人・時間）
・8名で3時間（基本的に作業道がある）

1.2km、40箇所の補修・補強に要した資材

資材	数	価格(想定)
WM(1×2m)	6枚	(500円×6) 3,000円
支柱(13mm、1.3m)	9本	(300円×3) 900円
アンカー(10mm、50cm)	10本	(200円×2) 400円
結束線(14号、なまし線)	1巻き	300円
		4,600円

▶ 防護柵の補修要因

要因の区分	箇所数	対応例
① 地面とWMの隙間	13	アンカー・支柱の追加 WMはめ込み等
② WM間の隙間	4	結束強化
③ 傾斜等による高さ不足	3	WMの柵上部への取り付け 忍び返しの除去
④ 結束線の切断など	6	結束強化
⑤ 水路部分の管理	4	WMの追加、水路の清掃
⑥ ｲﾉｼ等による柵の損傷	5	支柱・アンカーの追加など
⑦ その他	5	草の除去、WM折れ曲がりの補修

自然劣化など	: 19箇所 (47.5%)	→ 仕方がない
設置場所の検討	: 16箇所 (40.0%)	→ 避けられる
ｲﾉｼ等による損傷	: 5箇所 (12.5%)	→ 捕獲のチャンス!!



計画段階から維持管理を検討、捕獲に繋げる

対策の基本 その③

捕獲対策

▶ 多様な捕獲手法の一例

わな	エサで誘引し、一定の空間内に閉じ込める	箱わな（捕獲檻）	- 複数頭の捕獲が可能 - 錯誤捕獲が起こりやすい
		囲いわな（捕獲柵）	
	動物の移動経路上に設置し、ワイヤー等で動きを限定する	くくりわな 足くくりわな 胴くくりわな （しずかちゃん）	1頭ずつの捕獲 - 他の動物への影響が比較的少ない - 設置や移設が容易 - 止め刺しがやや困難
		その他 トラバサミ エッグトラップ	
銃	火薬を使って弾を飛ばす（装薬銃）	散弾銃 （ライフリングなし）	人やイヌで動物を追出して捕獲する：巻き 人やイヌで動物のいる場所に近づいて捕獲する：忍び 徒歩や車で巡回しながら捕獲する：流し エサや音に馴れさせて、誘引して捕獲する：誘引狙撃
		ライフル銃 （ライフリングあり）	
	圧縮ガスを使って弾を飛ばす（空気銃）	エアライフル	



捕獲機材、捕獲手法により捕獲の効率や傾向は異なる

▶ 捕獲手法による捕獲効率の違いの一例

（島根県におけるイノシシの捕獲効率）

箱わな1～2、くくりわな0.7～0.8、銃猟0.1～0.2

（大分県における銃猟による一斉捕獲効率）

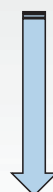
イノシシ0.08、シカ0.2

（捕獲効率＝1日あたりの捕獲数/捕獲従事者数・捕獲従事日数）

一般的な傾向として

- 24時間稼働でき、複数頭捕獲が可能な箱わな、囲いわな
- 24時間稼働でき、移動や設置が容易なくくりわな
- 日の出から日没まで作業ができ、発見次第捕獲ができる銃（流しや忍び）

効率 即効性



動物種、安全性、効率、体制を考えて組み合わせる

▶ イノシシのワナへの接近の事例

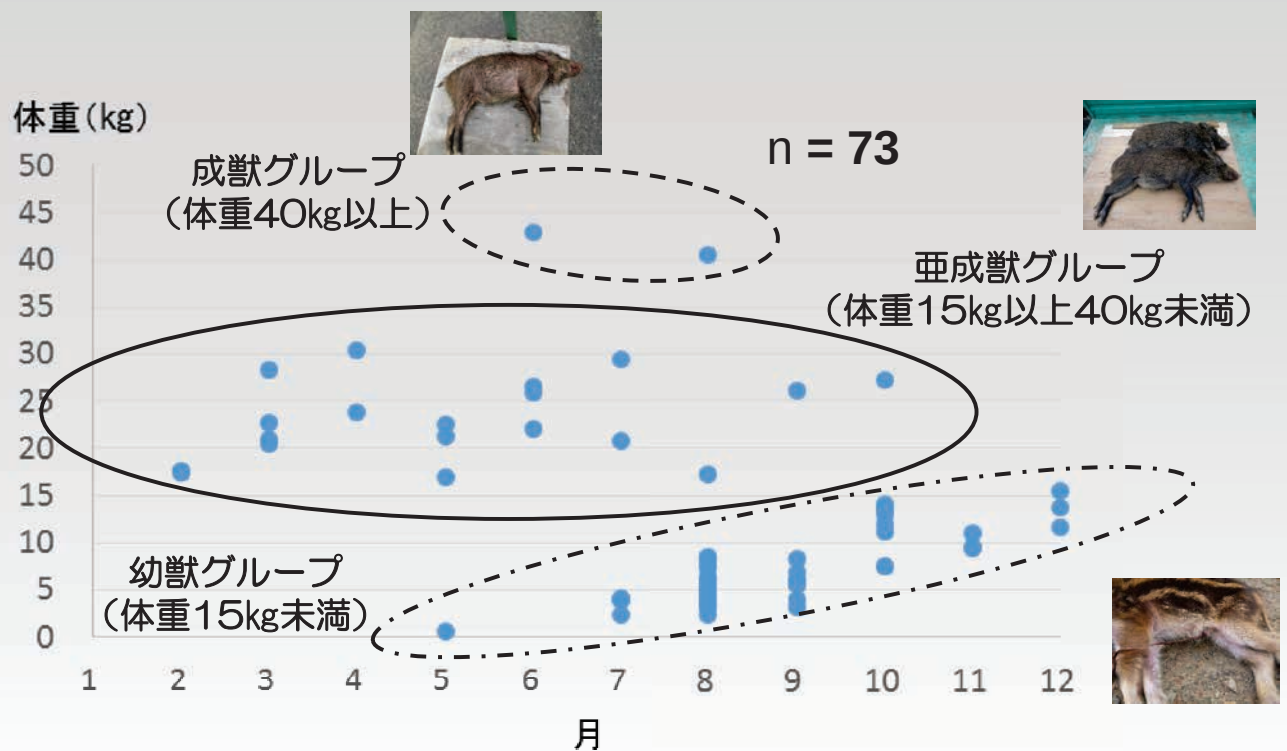


▶ わな接近時のイノシシの体高

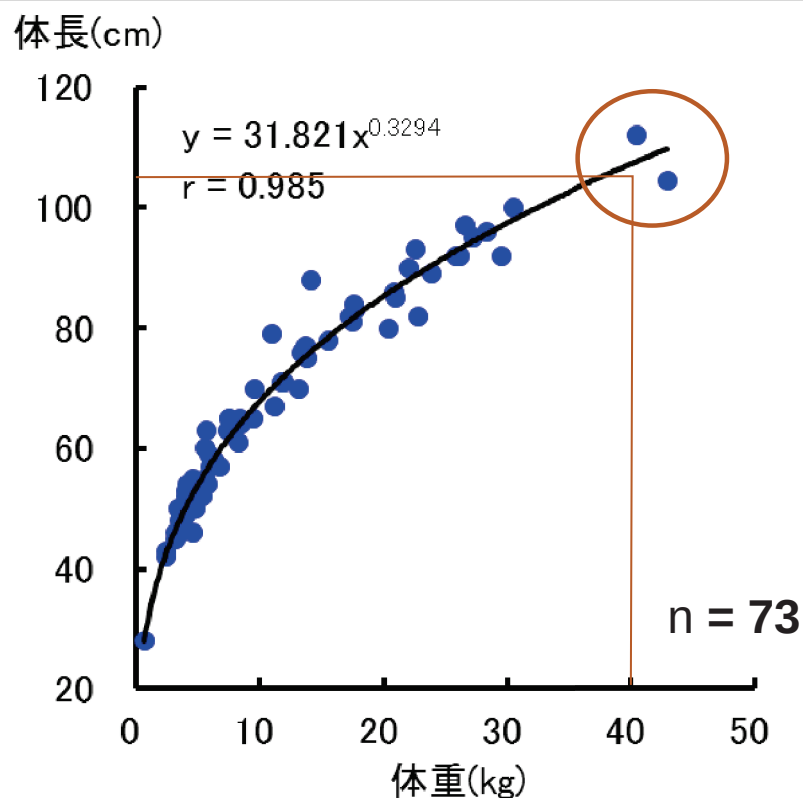
動物種	5cm	10cm	15cm	20cm	25cm	30cm	35cm	40cm	45cm	50cm	計
イノシシ	0	0	0	<u>28</u>	<u>40</u>	3	0	0	<u>9</u>	0	80
タヌキ	0	44	<u>131</u>	<u>594</u>	<u>106</u>	36	3	3	0	0	917
カラス	0	0	0	15	1	2	0	0	0	0	19

- 体高については観察時に最も高くなった体の部分と地面との距離とし、5cm間隔で分類した
- イノシシとタヌキにおいて、各種の扉通過の回数のうち10%を超えるものにアンダーラインを記した
- なお、観察期間111日間の出没した鳥獣種は9種で、出没日数等では、タヌキ（出没107日、わな侵入917回）、イノシシ（出没58日、侵入80回）、カラス（出没34日、侵入19回）となった

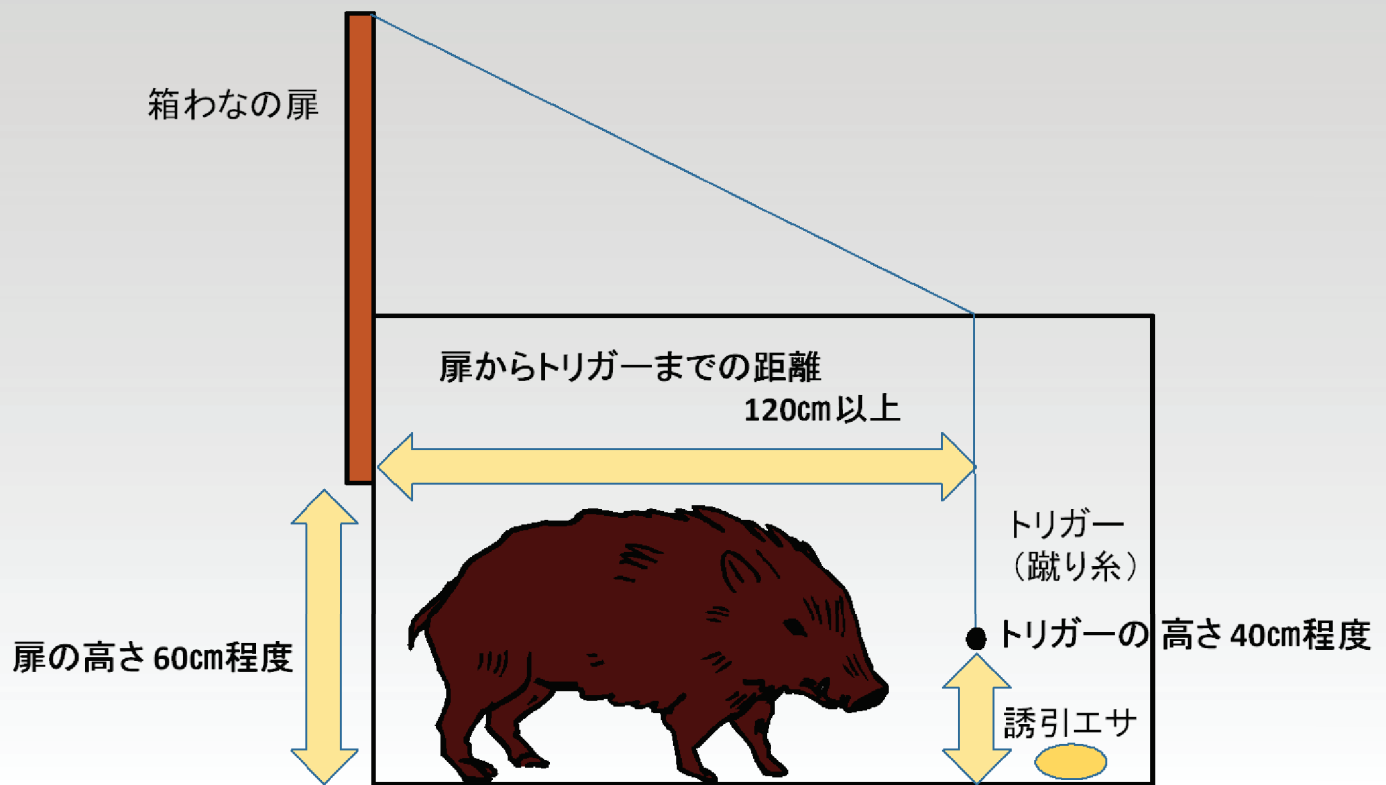
▶ 体重によるイノシシの齢区分(事例)



▶ イノシシの体重と体長の関係(事例)



▶ 逃亡を防ぐための箱ワナ設置モデル



▶ 被害対策の基本

- 防護柵は効果と管理を考慮して、資材やルートを選ぶ
- 環境整備は柵の管理と合わせるか、柵や捕獲が困難な場合に、維持できる範囲で実施する
- 捕獲は動物の特性に合わせて、効果がある手法を組合せる
- 目的と手段を間違えない（数値目標）